

◆単元の目標

11～18 から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方を理解し、計算の仕方を操作や図を用いて考える力を養うとともに、計算の仕方を操作や図を用いて考えた過程を振り返り、そのよさを感じ、今後の学習や日常生活に活用しようとする態度を養う。

◆単元構想

○教材観

本単元は、11～18 から1位数をひく繰り下がりのある減法の仕方について理解し、それを用いる力を養うことをねらいとしている。

○児童観

これまでに、10の合成・分解について、減法が用いられる場合やその意味、被減数が10以内の減法計算ができるようになってきている。また、第11単元「たしざん」の学習を通して、既習の数の見方を活用し、未習の計算の仕方を考えるということが身に付いてきている。

○指導観

本単元では、『10といくつ』という数の見方に着目し、計算の仕方を考える」という見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、資質・能力を育てていく。

第1小単元では、「10といくつ」という数の見方に着目し、減数が9～5の場合の11～18から1位数をひく繰り下がりのある減加法計算の方法を考えていく。第2小単元では、「10といくつ」という数の見方に着目し、減数が小さく、かつ減数と被減数の一の位の数の差が小さい場合の11～18から1位数をひく繰り下がりのある減々法計算の方法を考えていく。ここでは、「10といくつ」という数の見方に着目し、どこから減数を取るか、自分の考えやすい方法を選択する力を付けていきたい。

そこで、計算の考え方と手順の定着を目指し、ブロックを用いた操作と計算の仕方を言葉で説明することを関連付けるなどし、繰り返し練習させることで、徐々に念頭での計算が出来るよう育てたい。

◆評価規準

【知識・技能】

11～18 から1位数をひく繰り下がりのある減法計算が、「10といくつ」という数の見方を基にしてできることを理解し、その計算が確実にできる。

【思考・判断・表現】

数の構成に着目し、11～18 から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方を、操作や図を用いて考え、表現している。

【主体的に学習に取り組む態度】

11～18 から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方について、「10といくつ」という数の見方や操作、図などを用いて考えた過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。

◆学習の関連と発展

《本単元で働かせたい見方・考え方》

○「10といくつ」という数の見方に着目し、計算の仕方を考える。

《既習との関連》

- 数量の関係に着目し、減法の意味を考える力(第1学年)
- ・減法の意味、被減数が10以内の減法
- 「10といくつ」といくつという数の見方に着目し、数の比べ方や数の考え方を考える力(第1学年)
- ・15-5, 15-3 など

《学習の発展》

- 数の構成に着目し、数の比べ方や考え方を考える力(第1学年)
- ・34-4, 28-3, 50-20 など
- ・順序数の減法、異種類の減法、求小(第1学年)
- ・加法逆の減法(第2学年)

◆指導計画と評価 全10時間

① 13-9のけいさん

①プロログ、13-9の計算の仕方 【態】

②13-9, 12-9の計算から減加法による計算の仕方 【知】【思】

③10のまとまりから1位数をひくよさについてのまとめ(本時) 【知】【思】

④計算練習、文章題の解決 【知】【思】

② 12-3のけいさん

⑤12-3の計算から減々法による計算の仕方 【知】【思】

⑥自分が計算しやすい方での計算練習、文章題の解決 【知】【思】

③ かあどれんしゅう

⑦～⑨ 計算カードを用いた減法計算の練習 【知】【思】

④ まとめ

⑩たしかめよう 【知】【思】【態】

【本時の目標】

- ・前時までの学習を踏まえ、11～18 から 1 位数をひく繰り下がりのある減法計算で、被減数を分解して計算する方法(減加法)の理解を確実にする。

【本時の評価規準】

- ・数の見方(10 といくつ)を活用して、操作や図を用いて考え、説明している。また、その計算ができる。

《支援を必要とする児童への手立て》

- ・被減数を 10 といくつに分けることが困難な児童には「計算の仕方カード」を準備し、必要に応じて取り組ませる。

【本時で働かせたい見方・考え方と児童の姿】

「10 といくつ」という数の見方に着目することにより、既習の整数の計算に帰着して考え、新たな計算に出合ったときに、既に知っている計算で求めることができるよう、数の見方を工夫して解決しようとしている。

【期待される児童の振り返りの例】

- ・ばらからひけないときは、10 のまとまりからひくと計算できることがわかりました。
- ・次は、ひく数を変えて計算してみたいです。

◆本時の展開

※評価(方法)○発問

⇒可視化・意識化させる手立て

- 1 前時までの学習を想起し、本時の問題場面を把握する。⇒①

- 2 課題を設定する。

- 3 課題解決の見通しをもつ。

○4-8はできないね。ばらからひけないときは、どうしたらいいのかな。

- 4 自力解決する。

- 5 解決方法を発表し合い、検討する。⇒②

○ブロックと図で、考えの似ているところはどこかな。

※【思】(観察)

- 6 解決の過程で働かせた見方・考え方と計算の仕方をまとめる。⇒③

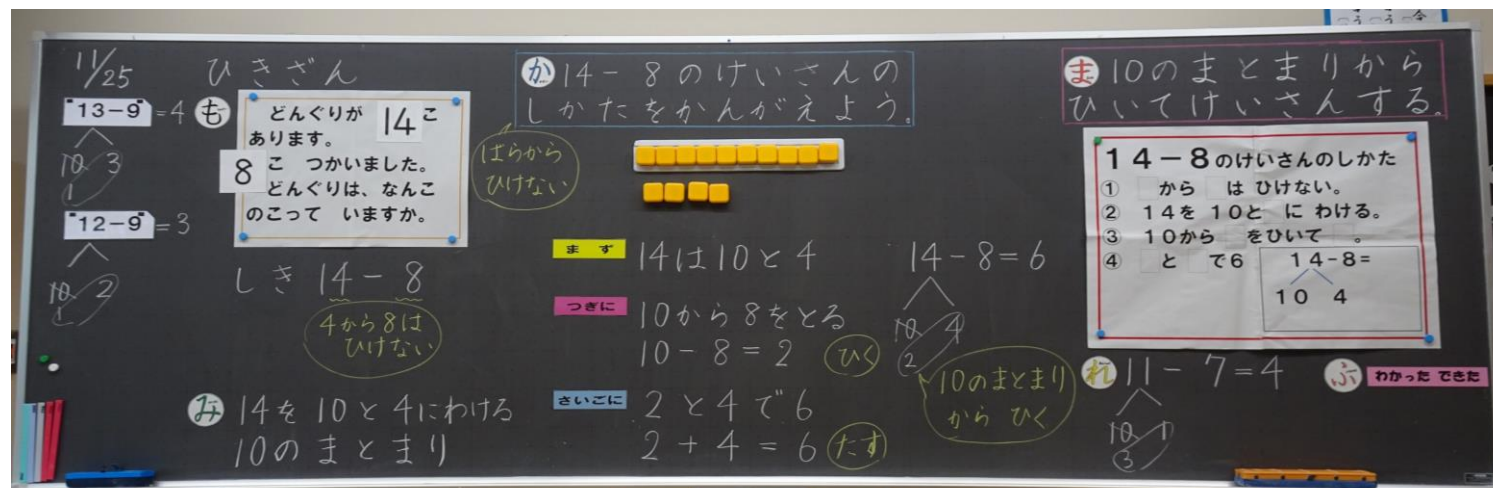
- 7 適用問題を解く。(11-7)

※【知】(ノート・観察)

- 8 ふりかえりをする。

◆板書計画

・・・見方・考え方を働かせている児童の反応



◆見方・考え方を可視化・意識化させる手立て (▲予想されるつまずき)

手立て①

本時は、前時と同じく十何-1位数で、1位数どうしがひけない減法であることや、減数が9から8に変わったことに気づかせ、計算の仕方を考えたいという課題意識を引き出す。

▲ブロック操作はできるが、言葉での説明ができない。

▲数えひきをしている。

手立て②

前時と同じようにブロックを操作したり、図をかいたりしながら「まず～、次に～、最後に～」などの言葉を使い、3つの段階を順に説明させる。他者の考えを解釈できるようにするために、説明を聞いた後にもう一度自分のブロックを同じように操作したり、隣同士で説明し合ったりする活動を取り入れる。数えひきをする児童には、必要に応じて「計算の仕方カード」に取り組ませる。

手立て③

減数が9～7の場合でも、一の位どうしてひけないひき算は、「10 といくつ」という数の見方に着目し、10 のまとまりからひいて計算すればよいことを確認する。